第 11 回『野口賞』授賞式

野口賞顕彰会

11 月 21 日（月）17 時よりホテルメリージュ延岡にて、第 11 回『野口賞』（奨励賞）の「授賞式」を執り行いました。ご来賓をはじめ大勢の皆様の出席のもと、今回の授賞者、バイオプロジェクト株式会社代表取締役前田昌調様、そして株式会社興電舎技術部製品開発課課長 別宮庄蔵様、同課主任井上真二様、同課亀澤朋将様に対して、清本会長から表彰状と賞金 50 万円を授与しました。

前田様の応募テーマ「ウイルスを抑える善玉細菌（抗ウイルス菌）による疾病防除」は、自然界にある細菌の中に動物の病原菌などのウイルスを分解し、動物の免疫を増進させる効果を持つ善玉細菌（抗ウイルス菌）などのウイルスを発見した。この善玉細菌を活用すると家畜が丈夫になり、肉質も良くなるという家畜飼育への道を開いたことが高く評価されての授賞です。

また、（株）興電舎の 3 名の皆様の応募テーマ「変圧器励磁突入電流抑制装置の開発」は、電気製品にスイッチを入れると瞬間的に電圧が下がり電灯が暗くなることがあり、同じことが変電所で発生すると、工場の全停止や電気機器の誤動作を引き起こすことになるが、この原因である異常電流（励磁突入電流）を抑制する装置を旭化成や九州電力などと共同開発し、独自に小型化した新タイプの製品を開発した。この製品の開発により安定した電力を供給に貢献することなどが高く評価されての授賞となりました。「授賞式」に引き続いて受賞者の皆様による「講演」が行われました。今後一層の発展が期待されます。

なお、第 4 回『野口賞』を受賞されました宮崎大学医学部教授中里雅光様による、受賞テーマ「ペプチドームを活用した新規ペプチドの探索化と実用化」のその後の実施状況・成果について特別講演がありました。確実に成果が上がっていて近い将来、さらに大きな成果が期待できるとの発表がされました。

メディア報道

（宮崎日日新聞．2011 年 11 月 22 日）

野口賞奨励賞に２件

無薬飼料化を促進　バイオプロジェクト 前田社長

異常電流の抑制装置　興電舎 別宮課長ら３人

前田昌調氏

別宮庄蔵氏

優れた技術開発を手掛けた県内の団体や個人を表彰する第11回野口賞（野口遵顕彰会主催）の授賞式が21日、延岡市内のホテルであった。奨励賞に家畜の病原性ウイルスの増殖などを抑制する善玉細菌（抗ウイルス菌）を発見し、無薬飼料化を促進したバイオプロジェクト（宮崎市）の前田昌調社長と、変圧器の異常電流の発生を抑える装置を考案し、小型化することなどに成功した興電舎（延岡市）の別宮庄蔵・製品開発課長（59）ら3人が選ばれた。

宮崎大発のベンチャー企業であるバイオプロジェクトの前田社長は、自然界に存在する病原性ウイルスなどを分解して増殖や感染を抑制し、さらに動物の免疫活性化を促進させる新種の善玉細菌を発見。この善玉細菌を活用し、抗生物質を使わない家畜飼育への道を開いた。

従来は抗生物質を添加した飼料を使い続ければウイルス数は増加し、動物の免疫活性も減退するという。前田社長は「家畜には口蹄疫や鳥インフルエンザ以外にもウイルス病が多いが、有効策が少ない。無薬飼料は家畜を丈夫にしウイルス病の流行を抑え、コスト削減にもなる」と話している。

興電舎の別宮課長らは発電所で作られた高電圧の電気を低電圧にして工場などに送る変圧器について、スイッチを入れる際に発生する異常電流を抑制する装置を九州電力や旭化成などと共同開発し、独自に小型化することなどに成功した。

情報システムの急速な発展などにより、わずかな電圧の乱れが生産活動に深刻な事態を招いており、別宮課長は「異常電流の悪影響を解消し、安定して電力を供給できる」としている。今後、特許を申請する予定。

授賞式では、同顕彰会の清本英男会長がそれぞれに表彰状と賞金（50万円）を手渡した。野口賞は旭化成の創始者・野口遵の功績と開発精神を伝えるため2001年に創設。今回は8件の応募があり、創造性や技術性、収益性など5項目を審査。本賞の野口賞の該当はなかった。

宮崎日日新聞
2011年(平成23年)11月22日　火曜日
（３）総　合